

他社との共創

社会課題解決に向けて、企業の垣根を超えた共創活動に取り組んでいます。成長の歩みを止めないために、環境変化に負けないスピード感で事業化・開発を進めていきます。

「事業を通じた価値創造」に向けた取り組み

事業を通じた価値創造
持続可能・循環型社会の実現



環境負荷低減と原材料の安定調達

2024年12月、積水ハウス(株)による「循環する家(House to House)」プロジェクトの記者会見が開催され、サプライヤー企業と取り組む資源循環の取り組み事例の一つとして、当社と連携した「インシュレーションボードの水平リサイクル」が紹介されました。この取り組みでは、積水ハウス(株)が持つ廃棄物回収・分別機能と、当社のインシュレーションボード製造における原料化技術を組み合わせることで、これまで実現が困難とされていた使用済み量からインシュレーションボードを回収・再資源化することに成功しました。循環型社会の実現には企業の枠を超えた連携と、循環資源を新たな価値として顧客に届ける発想が必要不可欠です。当社ではこの取り組みを自社製品における資源循環のモデルケースと位置づけ、今後は他の製品への応用・展開も視野に入れていきたいと考えています。



記者会見の様子

事業を通じた価値創造
公共・商業建築分野の課題解決



業界を超えたマテリアルリサイクル

循環型社会の実現に向け、東海旅客鉄道(株)およびジェイアール東海商事(株)と連携し、東海道新幹線の引退車両をリサイクル活用した内装建材『グラビオールバー 新幹線再生アルミ芯タイプ』を3社で共同開発しました。この製品の芯材には、アルミ新製時と比較してCO₂排出量を97%削減できる「東海道新幹線再生アルミ」を使用し、環境負荷を大幅に低減。基材には、未利用資源の「シラス(火山灰)」や製鉄副産物「スラグ」を活用した当社のエコ素材『ダイライト』を採用しています。環境に配慮した素材同士を組み合わせたサステナビリティ性の高さに加え、表面材に地域産材を使用することで地域社会のエンゲージメント向上にも貢献します。これからも地域との共生を図りながら、資源を廃棄せずマテリアルとして再利用し、サーキュラーエコノミーの実現に貢献できる製品の開発を積極的に進めていきます。



『グラビオールバー 新幹線再生アルミ芯タイプ』駅舎天井への施工イメージ



※「東海道新幹線再生アルミ」のロゴは、ジェイアール東海商事(株)の登録商標です。

事業を通じた価値創造
国内外の住宅市場を支える



物流の最適化

伊藤忠商事(株)の高度物流人財[※]との協業により、物流の最適化を目指しています。当社の物流データを多角的に分析したシミュレーションにより、物流体制の維持・配送効率の向上を目指すとともに、配送拠点の新設などを通じて、より良い物流ネットワークの再編に取り組んできました。また、従来、物流業者に依存していた倉庫管理システムの自社開発に取り組み、物流運用の柔軟性確保と業務標準化を目指します。2024年から同システムを地域配送センターに導入しました。今後も他社とのシナジーやデジタルツールを最大限に活用した物流システムの構築を目指していきます。

※高度物流人財：全体の視点から物流の効率化と高付加価値化を図るための企画・提案ができる人財



西日本流通センター



他社共創型コンソーシアム「point 0」を通じたマテリアリティ解決に向けた取り組み

当社は point 0が運営するコワーキングスペース「point 0 marunouchi」内で、ウェルビーイングに着目して、音環境の改善や内装木質化など、空間価値の向上につながる実証実験を行っています。

共創事例

欄間オープン個室における音環境改善

共創先：TOA株式会社



近年のオフィスでは、オンライン会議の増加により個室の需要が高まっています。そのなかで、出入り口上部の欄間を設けた「欄間オープン個室」は、「完全個室」よりコストを抑えられることが特長ですが、一方で、音漏れや情報漏洩の懸念も出ています。そこで当社の吸音パネルと TOA(株)の自然音マスキングを組み合わせた実験を行い、「欄間オープン個室」での会話の内容が対面する個室へ伝わりにくくなる効果を確認しました。



室内干し時における調湿建材による乾燥時間短縮の効果実証

共創先：ライオン株式会社 ※2024年時点での point 0 参画企業



近年の共働き世帯増加や、花粉・PM2.5への対策意識の高まりを考慮し、ライオン(株)の室内干しに関する知見と、当社の調湿建材『クリアートン12SII』を掛け合わせた、室内干し時の乾燥時間短縮に関する実証実験を実施しました。当社の調湿建材を使用した空間で洗濯物の乾燥への影響を検証したところ、一般的なクロス仕上の空間と比べて、乾燥スピードの向上や高湿度の抑制に効果があることが確認されました。これらの成果は、2024年6月に開催された日本繊維製品消費科学会でも報告されています。



インクジェット吸音パネルの共同開発

共創先：セイコーエプソン株式会社



当社の「吸音パネル」とセイコーエプソン(株)の昇華転写プリンターを使った「インクジェット技術」を組み合わせることで、吸音性能とデザイン性を両立させた吸音パネル『OFF TONEマグネットパネルNインクジェット特注対応』を共同開発しました。複数枚の吸音パネルを組み合わせることで1つの大きな画像を表現することもでき、空間を彩ります。



WELL認証 v2プラチナランクの取得に当社のソリューションが貢献



会議室の音環境測定を通して、音響調整部材を導入



企業にゆかりのある土地の風景を吸音パネルとして表現



栄養士を招いた食育セミナーの実施

2024年10月、「point 0 marunouchi」は国内のコワーキングスペースで初めて「WELL Building Standard™ v2」の最高ランク「プラチナ」を取得しました。本取得には、当社のソリューションが貢献しました。

WELL 認証取得に貢献



DAIKEN R&Dセンターが「WELL Performance Rating」を国内で初取得

point 0のWELL 認証のコンサル事業を活用して取得。R&Dセンターは、当社が訴求する快適空間ソリューションの実証実験の場としても活用しており、「音」と「空気測定」の分野において、実際のオフィスにおける環境性能の測定知見を深めることができました。

